

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600056		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	防府あかり園グループホームいちえ		
所在地	山口県防府市牟礼柳23番22号		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町受理日	平成30年7月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり、近所にスーパーや小学校、公民館など地域の社会資源が利用しやすい環境にあるため、積極的な地域行事への参加、日常的な散歩や買い物外出・外食、馴染みの場所や観光スポットへのドライブなど、地域との関わりを持つように心掛けると共に、社会との関係性を絶ち切らないように心掛けている。家族や住み慣れた家との関係を第一と考え、気軽に立ち寄って話をしていたり、利用できる場所となるよう努め、家族にはできる限りの面会をお願いしている。時には住み慣れた家に帰って子供や孫・ペットと触れ合う機会を設けている。ケアプラン作成時のカンファレンスには、必ず家族に参加をいただき、家族の協力のもと、共に利用者を支えていけるように心掛けている。毎日の個別記録にも、ケアプランに反映できるように、利用者との会話や支援の方法、結果などをその都度記し、ケアに繋がるようにしている。利用者が日々ストレスや不安を感じないで、笑顔で安心して過ごしていただけるよう、また、利用者だけでなく、家族や職員にとっても居心地の良い空間づくりを心がけ、利用者一人ひとりの想いに添った支援ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では毎月、利用者を担当している職員が利用者の日常の様子やエピソードを「手書きの便り」にして家族に送付してまいります。家族とは、面会時や職員との交換日記、6か月毎のカンファレンスへの参加時に、利用者の様子を話されたり、家族の要望や意見を時間をとって聞いておられ、情報を日々のケアに活かしておられることで、家族との信頼関係を築くことにつながっております。家族による受診支援や外食支援の他、事業所の庭木の剪定や草取り等に協力しておられるなど、家族とともに利用者を支え合う関係を築いております。利用者一人ひとりがその人らしい暮らしができるように、入居前には自宅訪問をされたり、日々の関わりの中では利用者の会話や表情、言動等を記録され、フェイスシートを1年毎に更新をされるなど、一人ひとりの思いや希望に添うように努めておられます。朝夕の食事づくりでは野菜の下ごしらえや配膳、下膳、給食日誌の献立の記録等、利用者は職員と一緒にされています。昼食がちらし寿司や炊き込みご飯の時には、利用者と一緒に野菜を切る、味見、混ぜるなど事業所で調理をされています。食事では形態の工夫やメニューの変更、テーブルの高さ、自助具の工夫をされて、利用者が自分で食べることができるように取り組んでおられます。利用者職員が同じテーブルについて同じものを食べながら会話を交わされ、楽しい食事となるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の名前の基となっている「この場所での出会い、一緒に笑い、一生何かを得ていこう」というスローガンと共に、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、施設内の各所に掲示して、共有、実践へとつなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は日々の業務の中で常に理念を意識したケアになっているかを確認し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入しており、回覧を回していただき、各種会合や地域行事に声をかけていただき参加している。現在、近隣地域で大規模な道路工事が行われており、隣接のデイサービスが地域の「一時避難場所」になったこともあり、関係者だけの説明会などにも自治会の方から声をかけていただいて参加させていただいている。子ども110番、ゴミの収集場所の提供、草引きや地域の溝掃除に参加し、地域の文化祭に利用者が作った作品を出品し、利用者と共に観覧に出かけるなど、地域の一員として様々な形で交流している。日常的にも、散歩の際や移動販売のパンを購入する際などに、近隣の方たちと気軽に挨拶や立ち話を交わすなどして交流している。	自治会に加入し、ゴミの収集場所の提供や子ども110番の役割を担い、職員は年2回、溝掃除や清掃作業に参加している。自治会の回覧や総会、道路工事説明会に参加して地域の情報や行事を把握している。利用者は、地域の夏祭りには浴衣を着て盆踊りに参加し、秋の文化祭には手工芸品を出展して職員と一緒に見学に出かけている。事業所にボランティア(アコーディオン演奏者)の来訪がる他、隣接のデイサービスセンターにボランティア(音楽サークル)が来訪した時には、出かけて交流している。週1回、移動パン屋を利用したり、散歩時に近所の人と挨拶を交わしている他、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へは、日常的な関わりを通じて、施設や制度のこと認知症の方への対応など情報発信ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を実施することにより事業所の活動を検証し、ケアの見直しや振り返りができている。また外部評価の評価や助言をその後のケアの改善に活かすことができている。	管理者は評価の意義について職員に説明し、前回の記録と一緒に自己評価をするための書類を常勤職員に配布し、記入してもらい、まとめている。職員は自己評価を通して、個別のサービスのための家族の協力や社会資源の活用など、日々のケアの振り返りとして、前回の外部評価結果を受けて、年1回の救急救命法の研修や日々の事故防止に向けた観察、予防、事故発生時の処置の研修に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者は、顔なじみの関係で、気軽に意見交換がしやすく話しやすい雰囲気である。会議で出された意見を基に、地域の安全対策の提言などを行うことができている。	会議は2カ月に1回開催し、利用者の状況や活動報告、行事予定、職員の研修報告、外部評価結果報告をして、話し合いをしている。参加者から地域行事の紹介や周辺道路の大規模工事についての情報があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	気軽に電話や窓口でサービスに関しての相談・情報交換・報告を行っている	市担当者とは、電話や直接出かけて、情報交換したり、相談して助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や直接出かけて情報交換や事例の相談等をして、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料提供を行って職員の共通理解を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中基本的には、玄関は施錠しないように心がけているが、玄関が、公共スペース、キッチンから見えにくいので、ドアにベルをつけて、職員間で声かけをして、所在確認できるよう心がけている。利用者の状況や職員の勤務体制によっては、安全確保の観点からやむを得ず施錠することもある。利用者にはなるべく本人の思いのままに行動していただき、「ここへ行きたい。」等、本人の思いを大切にしておかけたりしている。座席や車イスに座りっぱなしにならないように気を付けている。	職員は内部研修で学び、虐待防止に関する資料を通して、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者には、職員と一緒に利用者の行きたい場所にでかけたり、散歩などで気分転換をはかっているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては職員間で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待防止に関する内部研修や資料提供を行い、利用者の尊厳を守り、虐待及び不適切なケアのないように注意している。利用者の身体状況については、トイレや入浴の際に身体にキズやアザがないかなど状況の確認を行い、小さなキズやアザなどを発見した場合には、ヒヤリはっと報告に残すようにして、職員全員で身体状況の把握に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もおられたので、活用の必要性について認識している。権利擁護事業や成年後見制度に関する資料提供をおこなっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の概要や料金など、説明を行っている。家族からの想いや質問については、十分に伝えるようにしている。改定等の際には、必要な事項は文書で提示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付、第三者委員や運営適正化委員会についての説明を行っている。家族とは日頃から話しやすい関係づくりに努め、カンファレンスや毎月のお便り、面会などの際には利用者の様子を伝えたり、何かあれば家族に連絡するなどして信頼関係を築いている。家族からの意見や要望等を聞き、運営に反映させるようにしている。実現が難しいことでもきちんと検討し、できる範囲で要望に応えられるようにしている。	苦情相談の受付体制、第三者委員、処理手続きを明示し、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議参加時、半年毎のカンファレンス時、電話等で意見や要望を聞いている。利用者を担当している職員が利用者の日常の様子やエピソードを記録して、毎月、家族宛に送付し、家族が意見を言いやすいように工夫している。家族の面会が多く、職員と交換日記を交わす家族もいるなど、普段から、家族との関係づくりに努めている。家族からは、事業所の環境整備に協力したいとの申し出があり、樹木の剪定や草取りの協力を得ている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議の際には、上司とも直接話をする機会を設けている。園長と職員の個人面談などもあり、些細なことでも気軽に相談や提案ができる環境にある。日常的に職員の意見や提案を聞き、サービスの質の向上へ反映する努力を行っている。	毎月の月例会議には代表者が出席し、年1回は代表者との個人面談を設けるなど、職員は直接、代表者に意見や提案をする機会がある。管理者は月例会議時に聞いている他、日頃から気軽に意見や気づきが言えるようにしている。給湯器等物品の修理や常夜灯の購入、休憩時間の調整等職場環境の整備、配置異動等についての意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、職員の配置や手当の支給を行っている。休憩時間の調整を行うなど職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を行っているが、最近では、職員の勤務体制も厳しく、研修参加の機会が減ってきている。	外部研修は、職員に情報を伝えて、本人の希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は実践者研修に1名参加している。受講後は復命書を提出し、月例会議の中で伝達して、全員が共有している。内部研修は、年間計画を立て、管理者が講師となって毎月実施(倫理、法令遵守、感染症予防、事故防止、身体拘束、虐待防止、認知症について、リスクマネージメント、転倒・誤嚥の処置、発熱の観察、プライバシー保護等)している。新人職員は日々の業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「山口県宅老所・グループホーム協会」に加入し、研修会や交流会に参加しているが、職員レベルでの交流の機会は少ない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、本人にも来所していただき、施設の中の様子や居室を見ていただいて心配なことはないか聴いている。本人の安心できる場所作り、距離感など細かく配慮しつつ、やわらかく優しい雰囲気に対応し、少しずつ馴染んでいただけるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族についても、主たる介護者だけでなく、他の家族や親戚等にも、どのような場所で生活するのか、ということの共通認識を持ってもらっている。見学に来られた際、家族も一緒にホールで利用者とお茶をしていただくこともある。自宅に訪問するなどして、説明を行ったり困っていることなどを聞いている。家族とはしっかり話し、介護上の悩みや要望や不安なことなどを聞き、家族が安心して利用者を預けられる雰囲気を保つよう心がけている。家族も入居に対して本人同様に不安に思っていることが多い。質問には、ひとつひとつ丁寧に答え、安心していただけるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の見極めが大切だという認識のもと、現在どのような状況であり、どのような支援が必要なのかを話し合い、必要に応じて他のサービス利用についての情報も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者、また利用者同士のよりよい関係作りの手伝いとして、一日の流れの中で、お互いが気遣い、家族のような関係作りができるよう努めている。本人の能力に応じて、全部してあげるのではなく、出来ることはなるべく自分でしていただくように心がけている。いつもの表情等きちんと見て、何かお手伝いをしていただきたい時は、必ず感謝の気持ちを伝え、気持ちよくやって頂けるような環境づくりを心がけている。受診の際、Dr.から「施設の職員と入居者さんの関係に見えません。良い関係ですね。」と言われたことがある。年齢の近い職員とは近所の話しや昔話など、思いを共有できることも多く、年齢の離れた職員とは利用者の方が、母親のような気持ちで接して下さることもある。職員の方から悩みを相談したり励まされたりということもあり、人生の先輩として尊敬し、互いに感謝し合える関係づくりを意識している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に面会できたり、思っていることを聞いてもらったりできるよう努めている。自宅に住んでいた時の物、大切にしていた物などを、家族の了解を得て持ってきていただいている。入居時に協力をお願いし、定期受診以外の受診や行政手続き等に行っている。面会やカンファレンスの際に、気になることがあったら話していただいたり、こちらからも毎月近況報告を送り、電話や面会時に伝えたりして連絡を密にとり、相談しあえる関係作りに努めている。特に遠方に家族がおられる方については、不安のないように連絡を取っている。また利用者からの要望があれば、家族に電話をかけたり、自宅へ訪問するなどの了解を事前に頂いている。地域の夏祭りに家族と一緒に参加している。毎年、誕生日や母の日などは、家族から花束や面会に来られることが多い。植物が好きな利用者の方に、定期的に居室に置く鉢植えを持参される家族もあり。水遣りを職員と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日、利用者のどなたかに家族や友人など様々な方が訪ねて来られる。家族や知人と外出され、手続きごとや食事をされることもある。隣接のデイサービスを利用されている知人の訪問もある。隣接のデイサービスの慰問に参加することも多く、顔なじみの方に出会い、一緒に慰問を楽しんだりすることも多い。本人の思いや行きたい場所を探ったり、家族からも情報を得て関係の継続に役立てている。	孫やひ孫を連れての家族の面会や親戚、近所の人、友人、会社関係者の来訪がある。事業所から、自宅に連れて行ったり、銀行や会社に関連して行く他、電話や手紙、年賀状や暑中見舞い状での交流を支援している。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買物、結婚式、法事への参加、墓参、一時帰宅、外食等、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにソファを二つ設置して一緒に座って話ができるようにしている。10時と15時のお茶の時間には、みんなで一つのテーブルに集い一緒に歌やゲームなどをして過ごしている。食事の席を配慮したり、職員が間に入って一緒に過ごしたり、周囲の状況を考慮して利用者同士が会話できるようにきっかけ作りをしたり、個人と全体のバランスをとりつつ、その都度対応を変えながら孤立しないように配慮している。利用者が他利用者の事を気にかけてくださり、自ら話しをしてくれたり、伝言を職員にしてくれることもあり、とてもいい雰囲気となる。職員と利用者の関係ではなく、日常の挨拶から、利用者同士が自然にできる関係作りになるよう笑顔でさりげなく声かけできている。利用者が昔やられていたことを皆さんにやっていただく。習字をやっていただいて「あんた上手じゃね」などの会話が生まれてとてもよい。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。入院や入所された方の面会に行ったり、その後の様子を病院や施設のケースワーカーに尋ねたりしている。家族から年賀状が届いたり、亡くなられた利用者の家族が挨拶に来られたりと、本人の経過、現状の連絡が入ることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時のカンファレンスの際には利用者や家族の希望を聞いたり、利用者の日常会話や表情や態度、家事全般やレクリエーションなどを通じて、本人の思いや意向を把握するよう努めている。意思表示が難しくなっている利用者に対しても、コミュニケーションを図り、何を求めているのか少しでも理解できるよう心がけている。	センター方式のシート(家族から暮らしや生活情報、趣味、嗜好、意向、希望を記録)やフェースシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者との会話や言動、表情を介護記録や連絡帳に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合はカンファレンス時に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、センター方式の基本情報シート等を家族に記入していただき、入所後もカンファレンスの際や、何かあれば、これまでどうだったのか、家族から本人の生活歴などの話を聞き、状況把握に努めている。これまでのサービス利用の経過等を、ケアマネや他事業者等から情報提供を受けるなどして、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気がついたことや、本人のそのままの行動や言葉を、介護記録に残し、また介護記録だけでなく連絡帳を活用して少しのことで連絡し合い、一人ひとりの生活リズムを把握するようにしている。利用者が出来そうなことは、家族に確認したり情報を伝えたりして、やってみようということを意識している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式に則った介護計画を作成するようにしている。作成時は、利用者本人・家族の意向を反映したものとなるよう、職員間の会議を行った後に、家族参加のカンファレンスを行い、本人の現状に沿った介護計画を作成している。医師にも相談してアドバイスを頂き介護計画に反映させている。モニタリングは、毎月行い、適切に見直しを行っている。ケアプランに沿ってケアした場合は、介護記録の項目欄に「ケアプラン」と記して全員で課題についてのケアのあり方が共有できるようにしている。	計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。家族は6か月毎のカンファレンスに参加して意向を伝えている。ケアプランの実践状況は介護記録に欄を設けて職員間で共有できるように工夫している。1ヶ月毎にモニタリングを行い、6か月毎に見直しをしている他、利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は介護記録に記入し、利用者の生活パターンや人物像をとらえるよう努めてケアの実践に活かせるよう努めている。記録に残すことはもちろんだが、大切なことは口頭での申し送りをし確認するようにしている。ケアプランに添った支援を行った際には、介護記録に明記しており、プランに添った支援をするよう意識している。体重や血圧、体温、脈拍数などのバイタルチェックや食事、水分、入浴、排泄なども記録に残し、体調不良時や受診の際に活用している。モニタリングは、利用者状況を文章で作成し、毎月の会議の際に各担当職員が、利用者の状況報告やケアプランの取り組み状況を報告し、職員間で情報共有している。二つのユニットが一緒に行うので、それぞれどんなプランを立てどうなっているのかが把握できている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接のデイサービスの行事に参加したり、体調不良時の受診手続きや送迎、入退院時の送迎、往診の依頼等の対応の他、既存にとられない柔軟な対応を心掛けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商業施設、公民館、喫茶店への外出等、利用者個々の楽しみが継続できるよう支援している。地域の協力のもと、地域の文化祭に利用者が作った作品を出品したり、地域の夏祭りに参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族同意のもと、近隣の個人開業医院の協力病院をかかりつけ医としてもらっている。不安に思うことなどはすぐに相談でき、助言や指示をいただくようにしている。休日にも電話相談を受けていただいたり、服薬の処方をしていただいたりしている。インフルエンザの予防接種や利用者の体調不良時には往診していただき、必要な時は、医師自ら救急病院との連絡を取っていただくこともある。他の病院に受診される時は、紹介や状況報告をしていただいている。入居前のかかりつけ医を継続して希望される方は、無理強いせず継続して受診していただき、納得してから移行されるようにしている。	かかりつけ医は本人及び家族の納得を得て協力医療機関とし、月1回、事業所が受診支援をしている。体調不良時や予防接種時には往診がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は口頭で聞き、連絡帳や介護日誌に記録して家族、職員間で共有している。夜間、休日、緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、かかりつけの病院に連絡し、医師や看護師の指示を仰ぐようにしている。隣接のデイサービスの看護職員にも相談等受けてもらったり、ケガや体調不良などの際には、応急処置の対応をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時のために個人のフェイスシートは随時書き換えを行い、最新の情報が提供できるようにしている。入院時には利用者情報を病院へ提供し、病院のケースワーカーや医師や看護師と密に連携を取り、情報交換をして早期退院に向けての協力や柔軟な対応をしている。また利用者の不穏が発現した際には、職員が立ち会ったり、家族の同行を依頼するなどして安寧に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された利用者については、出来る限りグループホームでの生活が継続できるように支援を行っているが、本人の負担となるような場合には、家族に対して特養入所や入院等、できるだけ本人が幸せであり、家族の思いも大切に、今後についての流れをしっかり話し合い、手続き等の支援を行っている。	重度化や終末期に向けて事業所のできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から、主治医と相談し、家族と話し合い、方針を決めて、医療機関への入院や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	状況報告書をもとに、一人ひとりの状態に応じて事故原因を検証し、見守り・付き添い・介助等おこない事故防止に取り組んでいる。状況報告書は、両ユニットで回覧し情報を共有している。服薬や状態の変化などは、細めに連絡帳に記載するなどして共通認識を持つようにしている。施設内にAEDが設置されAEDの救急救命訓練を行ったが、定期的には実施できていない。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書や状況報告書に内容や原因、対応、改善策等を記録して、代表者に報告し、管理者の意見、改善策を付記して両ユニットに回覧し、連絡帳に記録して、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。防災機器設置業者による救急救命法とAEDの使用方法を職員全員が受講し、内部研修で転倒、誤嚥、観察等について実施しているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練、災害避難訓練を行い、隣接施設との協力体制をとっている。利用者も毎年参加し、その流れも実際に見ていただいている。	年2回、防災機器設置事業者の協力を得て、夜間の火災を想定した通報訓練、避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認等の訓練を利用者も参加して実施している。今年度、「自動火災報知設備」を設置し、火災時には直接消防機関へ通報ができるようになっている。運営推進会議では災害時の地域との協力について話し合い、避難訓練への住民参加を依頼しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。非常用食品は備蓄している。	・地域との協力体制の構築	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシーの保護については規程を設け対応している。日々の対応の中でも、トイレ誘導の際には、筆談やさりげなく声掛けをするなど、個人の人格を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。トイレの見守りや介助が必要な利用者は、トイレの中で見守るが、自立されている方はカーテンを閉めて外で見守り、必要があれば声かけをしている。	職員は内部研修(倫理、法令遵守等)で学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の希望や好みを見つけられるよう努め、なるべく利用者の思いが表出できるような支援を心掛けている。会話をする際には、利用者の力に応じた説明の仕方や声かけ、自己決定しやすい質問の仕方を心がけている。自然に気兼ねなく伝えもらえるように、信頼関係の構築に努めている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの居たい場所で過ごしてもらいようにし、一人ひとりのペースを大切に、できる限りこれまでの生活リズムをくずさないように過ごしていただくことを意識して支援している。日中のほとんどを居室で過ごされる利用者には、コミュニケーションを図るために時折訪室し、体調も変わらないか様子を見るようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれをすることを大切に、起床後すぐに化粧をする習慣のある方にはそのようにしている。普段でも、化粧、理美容、服装等、個人の好みに合ったおしゃれを楽しんでいただけるよう支援し、ヘアピンや編み込みをして髪の毛のおしゃれをしている。ヘアセットをしていると「いつもかわいくしてもらって。」と家族も喜んでおられる。敬老会では、化粧やヘアセットをして参加していただいた。化粧道具を渡すと自然とファンデーションや口紅をつける等の動作が出て、鏡で自分の姿を見て喜ばれていた。起床後は必ず鏡の前に立っていただき櫛で髪の毛をといたりして整容していただいている。できない方は、職員が行い。整容後、鏡でご自分の顔を見ていただいている。行事の際、利用者代表として最高齢の方にドレスを着ていただいた。「恥ずかしい」と照れ笑いしながらも「皆さんののおかげです」と嬉しそうに話しておられた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>準備から調理、盛り付け、片づけまで、利用者と職員と一緒にっており、野菜の下準備などは数名で行うこともある。利用者の中には積極的にされる方もある。味付けや盛り付けなど、職員が教わることも多い。今までの習慣を大切にして、朝パン食の方にはトーストを提供している。肉嫌いには魚で対応したり、混ぜご飯が嫌いな方には白ご飯を別に準備するなどして、その方の好みを尊重している。メニューによって食べられない方には、味付けを変えたり、同じ食材で別のメニューを提供し、アレルギーや制限のある人には代替となる別のものを提供している。季節のものや行事に沿った献立の時は、そのことを伝えて、より食事が楽しめるよう努めている。一人ひとりが楽しくおいしく食べられるよう、安全に日々本人の状態に合わせて心がけている。本人の体調に合わせて量を調整したり様子を見て変更している。一緒に配膳をしていると「おいしそう」「いいにおい」と言われたり、季節の食材から「もう冬ですね」など会話が広がる。食事は、大変楽しみな時間のひとつだと思うので、スピードや量を本人のペースに合わせてもらっている。テーブルが高くて食べにくい方には低いテーブルを用意して自分で食べられる環境を作っている。箸が持ちにくい方には、本人が持ちやすいように自助具を使用して、自分の力で自分のペースで食べられるように支援している。季節の行事やイベントの際には、献立やおやつを変えたり、食事を楽しみながら季節や行事が感じられるようにしている。</p>	<p>食事は、昼食のみ隣接のデイサービスセンター厨房からの配食を利用し、朝食と夕食は法人の管理栄養士の指導を受けて事業所でつくっている。給食日誌に毎日、昼食の内容、気づきを記録をして、法人栄養課との連携を図り、献立づくりの参考にしてもらっている。利用者一人ひとりの状態を把握して、食品交換や形態の工夫、メニューを変える、テーブルの高さの調整、自助具の利用をして食べやすいように工夫している。利用者は、野菜の下ごしらえ(もやしの根切り、切る)や味付け、混ぜる、盛り付け、配膳、お茶汲み、下膳、食器洗い、テーブル拭き、給食日誌に献立の記録等、できることを職員と一緒にしている。昼食がご飯もの(炊き込みや寿司)の時は事業所でつくり、移動パン屋を利用して月2回は朝食をパン食にするなど、食欲が湧くように工夫している。利用者と職員は同じテーブルについて食材の話を交わしながら同じものを食べている。弁当を持つての花見や外食、家族も参加してケーキでのお祝い会、季節行事食(おせち料理、節句の寿司や蛤、土用の鰻、恵方巻、年越しそば、敬老の日の料亭からとる祝善)など食事を楽しむことのできる支援をしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は、隣接デイサービスから提供し、管理栄養士に指導を受ける機会を設け、偏りのない栄養摂取ができるようにしている。夕食のメニューは肉と魚を交互にするなどし、必ず野菜を入れるように心がけている。油物はできるだけ避けて、食べやすいものを提供している。時々利用者に「何が食べたい？」と聞いている。一人ひとりの嚥下状態に合わせて、粥、刻み食、ミキサー食などの食事形態にしている。給食日誌をつけて、バランスを考えた献立を作成し、各利用者の摂取量・摂取状況を把握して記録に残している。入浴後や毎食後のくつろいでいる時間には、必ずスポーツ飲料などで水分補給をしていただき、必要な方には居室にも白湯を準備し日中・夜間好きな時に飲めるようにしている。水分摂取量が少ない方は、個別に好みのドリンクを飲用してもらおう等の工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	要介助者については、職員介助にて毎日気持ちよく清潔に口腔内が保たれるよう、使い捨てのブラシを使用している。自身で口腔ケアができる方はもちろん、食後歯ブラシで磨いている。夕食後の口腔ケアは良くできているが、朝昼食後は、バラつきがある。義歯は夕食後の清掃後に預かり、洗浄剤で洗浄している。また、歯ブラシ・コップについても夕食後の口腔ケア終了後に預かり、夜間消毒・乾燥を行っている。家族にも協力をいただきながら、歯科受診や訪問歯科診療、口腔ケアを勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各居室にトイレがあり、各自自分の居室トイレで排泄してもらっている。利用者それぞれの排泄間隔や回数を把握し、定期的にトイレの声かけを行うなどして、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をして、各居室にあるトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間のトイレの使用に気づくようにトイレの入口のカーテンに鈴をつけて確認や転倒予防をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ、日中はホールで過ごしていただき、毎日のラジオ体操や散歩などで活動を増やしている。座位のままでも可能な運動を日々心がけている。排便状況を確認し、記録をつけて把握している。自立している利用者については口答で確認したり、排便後、ナースコールで知らせていただき、便の状態を確認している。必要があれば主治医に相談し緩下剤の処方を受けている。職員間で排泄状況の申送りを密にして緩下剤の調整を行い、便秘の予防対応ができています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴は毎日実施し、本人の意思を確認して入浴してもらっている。各利用者の希望に添った時間帯、入浴法、温度設定を考慮して介助を行っている。浴室の室温には十分気をつけている。浴槽に入ることが困難な方は、二人で介助するなどしている。拒否があれば、時間を置いて再度声掛けしたり、入浴担当ではない別の職員が対応するなど、個々に応じた柔軟な対応をしている。行事などで入浴が行えなかった日も、必要に応じて陰部洗浄や清拭、足浴を行っている。冬至にはゆず風呂にするなどして、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	入浴は毎日、13時から17時までの間可能で、順番や好みのシャンプー、石鹸を使い、季節の柚子湯、入浴後のクリームの塗布等、利用者の好みに応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、職員2人での介助や清拭、足浴、部分清拭等、個々に応じた入浴支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、共用ホールや居室で休息できるよう配慮している。就寝時、不安のある方には、無理に入床を勧めず、休まれるまで職員と話をし過ごしたり、夜勤者の側で寝て頂くこともある。また逆に、夜間寝不足で起床時間に起きられない方も、無理に起床を促さず、自身のタイミングで目覚めていただくようにしている。夜間の照明も希望される明るさで対応し、「外から誰かが入ってくる」との訴えがあり、不穏になる方には、一緒に布でバリケードを作り、夜間は、窓にかけて安心して眠れるようにしている。夜間、エアコンやトイレの電源ランプが気になる方には、ランプにテープを張ったり、寝る前に温度調整をして就寝時にはつけなくてもいいようにするなど、光が気にならないように対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や量、形状等についても気になることがあれば、主治医、調剤薬局と連携を取っている。利用者の服用している薬の一覧表は、個人ごとにファイルしており、薬の変更等あれば職員間で情報を共有して様子観察すると共に、家族にもその都度報告している。薬は職員が管理し、服薬時には一人ひとりに手渡しして飲み込みまで確認し、チェック表で服用確認を行って、誤薬や飲み忘れのないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで得意とされていたことをしていただくことで、生き活きとした生活が送れるように心がけている。生け花が得意な方に花を活けていただいたり、裁縫の得意な方に縫い物をお願いしたり、計算が得意な方に計算プリントやクイズ問題を提供したり、文字を読むのが好きな方に新聞や情報誌を提供するなど、一人ひとりの生活歴や趣味・習慣などを活かせる役割作りを行っている。習字が得意な方だけでなく、利用者全員で書初めを書いていただく「上手じゃね」と、周りの方との会話作りができる。	掃除機をかける、布団を敷く、布団を上げる、リネン交換、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、花を生ける、裁縫、パッチワーク、野菜の下ごしらえ、野菜を切る、味付け、寿司を混ぜる、盛り付け、配膳、テーブル拭き、食器洗い、移動パン屋の利用、教職日誌に献立の記録、折り紙、習字、紙細工、季節の壁面飾り、塗り絵、本や新聞を読む、日記をつける、テレビやDVDの視聴、CDを聞く、歌を歌う、いろはかるたの読み合わせ、トランプ、黒髭げーむ、風船バレー、しりとり、計算ドリル、ラジオ体操、介護予防体操など、一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いを持って暮らせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や状況に応じて、散歩やドライブなどを行っている。ゴミ捨てやちよつとした買物なども一緒に出かけ気分転換を図っている。専用の車両があり、車椅子の方でも外食やショッピングなど、個別に幅広く活動できる。また自宅訪問や地域の行事参加の際には、家族、地域の方々の協力のもと外出の支援をしている。個人差があるが、毎月家族の方と外出を楽しまれる方もいる。なるべく月に1回は外出を心がけている。できるだけ全員が外出できるようにしている。家が近い方は、散歩がてら車椅子で家まで戻られ、家で家族としばらく過ごしてから帰園されることもある。	周辺の散歩や買物、移動パン屋の利用、季節の花見(梅、桜、紫陽花、菖蒲、コスモス、紅葉)、ドライブ(天満宮、春日神社、大平山、小野方面、築港公園)、文化祭、夏祭りに出かけている。家族の協力を得て美容院の利用や外食、買物、一時帰宅、墓参、法事や結婚式等、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金については、家族から1万円程度をお預かりして施設で管理し、希望時に使えるようにしている。受診の際も、できる方には自分の預かり金の中から自分で支払いをしていただいている。お金を持ちたいという方には家族と相談の上、持っていただき、外出時は自分のお金で買物をしていただく場面を作っている。外出以外にも、施設に週1回パンの移動販売車が訪れるため、利用者は自分でパンを選び、支払いをして買い物を楽しむことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する方には対応している。家族から掛かってきたり、こちらから家族へ掛けた際には本人に代わって話をしてもらっている。家族へ送る季節行事のカードなども作成し、家族面会時に直接本人から家族にプレゼントしていただいた。年賀状や暑中見舞いを送る支援をしており、年賀状のやり取りをしている相手が、他の利用者の縁者だったというケースもあった。離れている家族と手紙のやり取りをされている利用者もいる。また施設から家族へ毎月の状況報告を送付する際に、本人が書いた手紙を同封して一緒に郵送するなど、機会をとらえて支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視覚的にも感覚的にも居心地良く過ごしていただけるよう、飾りや照明、空調などに配慮している。季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒に作って飾ったり、家族からいただいた花を飾ったりしている。学校の教室のように共有スペースに利用者が書かれた書を掲示して喜ばれている。家族からの協力でクリスマスにはかわいい飾りなどを頂き、利用者と一緒に飾り付けをして楽しんでいる。	食堂兼リビングは大きな窓から自然光が差し込み明るい。室内には季節の花が生けてあり、壁面には季節の飾りや習字が掲示してある。室内には大きなテーブルやソファが配置してあり、畳コーナーと合わせて、利用者が思い思いの場所でくつろげるようになっている。台所は対面式でホール全体が見渡せる位置にあり、調理の音や匂いが五感を刺激し、生活感を感じさせる。照明の工夫や温度湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いを尊重し、気持ちよく食事ができるよう配慮している。不愉快な気持ちにならないよう気を許せる人同士が隣に座っていただくなど心がけている。気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるよう、テーブルやソファの向き、席の配置など居場所づくりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っていたダンス、ベッド、飾り等、馴染みのあるものを持って来てもらうようにしている。家族からの手紙や写真を飾ったり、本人自身のアルバムを持ってきていただいたりしている。居心地よく過ごせるよう、身体機能や認知機能など本人の状態に合わせて、本人、家族と相談しながら家具の位置、ベッドの高さや手すりの配置などを変更したり、季節ごとに家族と一緒に衣類の入れ替えを行ったりしている。トイレに本人の好む歌や詩を飾ったり、季節を感じられる季語を書いた紙を貼っている。洗面所にバースデーメッセージを置くなどして、生活の場を居心地良く工夫している。	ベッド、箆笥、洋服ダンス、衣装ケース、籐椅子、椅子、座机、鎌倉彫の小物入れ、洗濯物干しスタンド、洋服掛けパイプスタンド、テレビ、カセットラジオ、時計、温湿度計、本、雑誌、アルバム、人形、ぬいぐるみなど、利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁面にはカレンダーや神社のお札、家族写真、自分の手作り作品等を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室までバリアフリーとなっており、廊下は手すりが設置してある。居室内に洗面所とトイレがあり、周囲を気にせず利用できる。台所も蛇口が二つ設置してあり、高さも利用者と一緒に炊事ができる高さになっている。足腰が衰えないように歩行したい方は、廊下を往復してトレーニングしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 防府あかり園グループホームいちえ

作成日：平成 30 年 7 月 2 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	地域メンバーの拡大。	地域の様々な方に出席していただく。	自治会長や地区の役員の方など、地域の様々な方に出席していただき、GHの理解を深めていただくと共に意見等を施設の運営に反映させる。	6ヶ月
2	3.5	全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施。	定期的に応急手当や初期対応の訓練を実施する。	転倒、誤嚥、発熱等の事故に対応できるよう、月例会議等の機会に全職員に対し訓練を実施する。	6ヶ月
3	36	地域との協力体制の構築。	災害時の地域との協力体制を構築する。	災害時の協力体制を確認し、地域とのネットワーク作り等についても検討していく。近隣の方に避難訓練や消火訓練への参加を依頼する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。